

【第8回 実務者会議 報告事項】

充電設備を導入後のマンションにおける EV普及率について

～戸建て感覚の安心便利な充電環境が、住民の着実な EVへの乗り換えを後押し～

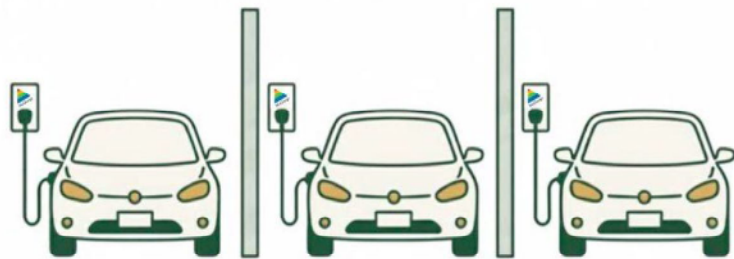
2026/02/05
ユビ電株式会社

最適解：なぜ「個別」に「コンセント」を設置するのか

「EV充電設備=急速充電器」という誤解を解く

「EV充電設備」と聞くと、高額な急速充電器を想像しがちです。しかし、今回ご提案するのは家庭用エアコンと同じ200Vの「コンセント」です。この実態に合った言葉で考えることが重要です。（出典:コスモ麻布十番管理組合様事例）

個別設置の圧倒的優位性



- ✓ 各戸専用の区画にあれば、「いつでも」「好きな時に」「誰にも気兼ねなく」充電可能。朝起きたら満タン充電。
- ✓ 車両を移動させる必要がなく、充電中の待ち時間は実質ゼロです。

なぜシェア型（共用）ではダメなのか？



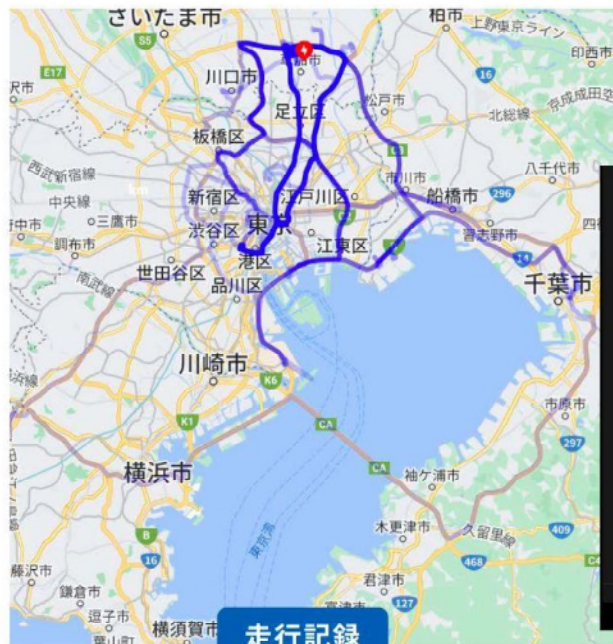
- ✗ EVが増えるほど、充電待ちや使用後の車両移動の手間が発生。
- ✗ 住民トラブルの温床となります。「充電が終わった後の車の移動」は争いの元凶になり得ます。

**ポイント:夜間の長時間駐車には、安価で故障しにくい200Vコンセントが最も合理的です。
導入される電線管や分電盤は、補助金も手厚く、数十年使用できる長期的な資産となります。**

EV充電の基本は自宅充電

マンション駐車場に充電コンセントがあれば駐車中に充電が完了します

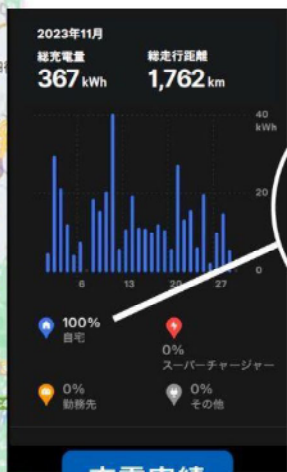
1ヶ月間で1,762kmを走行した記録と充電実績データ



走行記録

ガソリン車なら120ℓ*程度必要でも
EVなら自宅充電のみで完結

*15km/ℓで計算：1,762km ÷ 15 = 117ℓ



充電実績



① 駐車時間を有効活用

- 自宅充電が最適解。駐車している時間で満充電
- 出発時は常にバッテリーが満タン

② 充電コストの削減

- ガソリンより安価な“燃料費”を実現

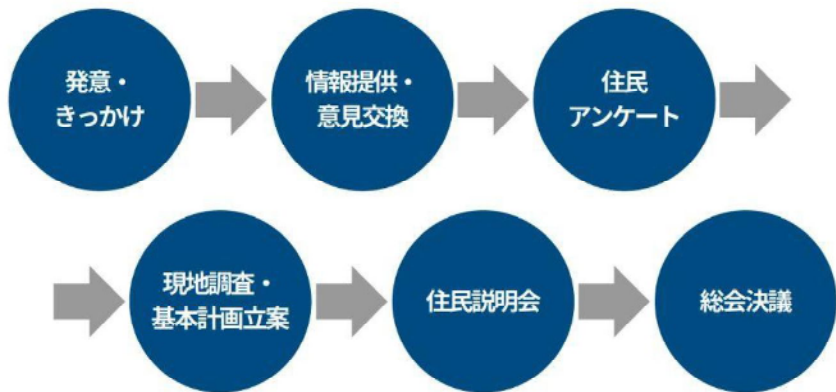
③ 移動の手間なし

- 公共充電スタンドやガソリンスタンドへ行く必要がなく、時間を有効活用できる

導入プロセスと合意形成の道のり

導入の鍵は、技術ではなく「人」。重要ポイントの99%は丁寧な合意形成にあります。

【1】合意形成への標準プロセス（モデルケース）



検討の主体：理事会や専門委員会が主導するのが一般的です。

合意形成のポイント：継続的な情報開示、アンケートの戦略的活用、住民説明会の開催が成功の分かれ目となります。

【2】プロジェクトの推進力：「EVに乗っていないEV理解者」を増やす

「一部のEV利用者のため」という誤解を生まないことが最も重要です。EVの利便性や将来性、受益者負担の仕組みを丁寧に説明し、「自分は今はEVは乗らないが、マンションの将来のために導入は賛成だ」という「理解者」をふやすことが、円滑な合意形成の最大の推進力となります。



事例紹介：既存大規模マンションでの豊富な成功実績

既存大規模マンションへの全区画導入は、ユビ電が唯一、豊富な実績を持つ領域です。

グレースiapark八王子みなみ野（東京）



規模：274区画

特徴：平面自走式駐車場の全区画に導入。

亀戸レジデンス（東京）



規模：427区画

特徴：自走式立体駐車場の全区画に導入。

フォレストプレイス香椎照葉ザ・テラス（福岡）



規模：429区画

特徴：自走式立体駐車場の全区画に導入。

EV充電設備は、住民のEV乗り換えを促進し、将来の需要に備えるための先行投資として極めて有効です。

導入済みマンションでEV試乗会を開催



WeChargeを導入したマンションでEVシフト促進

マンションで自宅充電が可能になることで、初めてEV購入が選択肢に加わります。



国内EV保有率

1.0%

国際エネルギー機関



WeCharge全体契約率

< 4.7%

WeCharge設置済みの
マンションにおける契約率
≒ EV・PHEV購入者

設置時期別契約率

2025年度設置

4.7%

設置1年目

2024年度設置

3.4%

設置2年目

2023年度設置

4.8%

設置3年目

2022年度設置

12.1%

設置4年目

2021年度設置

13.0%

設置5年目

マンションによっては
すでに**60%に到達**

設置以降、年数が経過するほどにEV・PHEVシフトが進む

理事長さまの声（東京都主催 無料相談マッチング会 講演から）

第4回 マンションEV充電設備設置に関する 充電事業者と管理組合のマッチング会

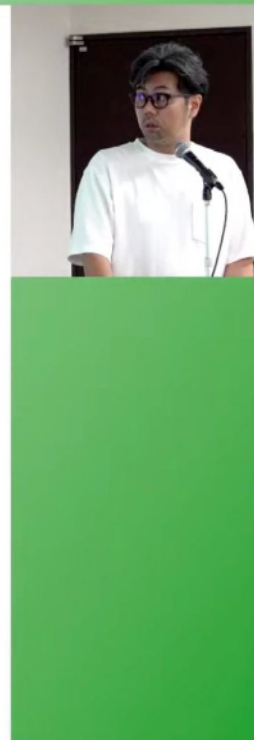
導入先マンションの概要

築24年の分譲マンション。現在は区分所有者の半分以上を外部居住者が占めている。
駐車場の全5区画にEV充電用の200Vコンセント+WeCharge を2022年11月に導入



導入経緯は、noteでも記事になっています
<https://note.com/wecharge/n/n5457696c7188>

- 物件名：コスモ麻布十番
- 種類：分譲マンション（総戸数：21戸）
- 築年月：2000年1月
- 場所：東京都港区
- 駐車場：5区画
- 充電設備設置区画：5区画（全区画設置）
- 充電設備種類：EV充電コンセント（200V）
- 導入費用：約234万円（うち経産省補助金203万円）
（補助金を除く）実質的な導入費用：約31万円



導入後、どんな変化があったか

導入後も、導入前に出ていた不安の声への対応が管理組合に求められる場面があります。一方で、EV充電設備の導入がきっかけとなって、EVの購入・利用が進む肌感があります

- 導入後も「EV充電のための電気代を、EV充電をした人が本当に負担しているのか（＝管理組合の持ち出しになっていないか）」との住民の不安の声が、ごく一部で残った。このため、充電サービス事業者の協力も得ながら、**導入後の運用データを示して個別に説明**したところ納得いただき、それ以後に住民から**不安の声が上がったことはない**。
- 「充電できない」などのクレームや機器の故障など、**管理組合の対応が必要なトラブルは導入後ゼロ件で、非常に安定した運用**ができています。
- **充電コンセントが設置された全5区画のうち、利用者が1区画（＝私のみ）→3区画に増加した**。新たに利用を始めた住民の方いわく、「**自宅マンションの駐車場に充電コンセントがあることは、今の車（PHEV）を選ぶに至った理由のひとつ**」。
- 余談）EVの自宅充電はとても便利だと実家（戸建）の両親に話したところ、いつしかガレージに200Vコンセントが設置され、**70代の母が軽EVに乗り換えていた**。

戸建と同等の充電環境をマンションで実現し着実なEVシフトを！



WeCharge Tomorrow.

選ばれるマンションは、エネルギーがちがう。

本資料に関する お問い合わせはこちらまで

EV充電サービスWeCharge ユビ電株式会社

E-mail : hello@wecharge.com

Web: www.wecharge.com

会社名 ユビ電株式会社 (Ubiden, Inc.)

設立 2019年4月19日

代表者 代表取締役社長 山口 典男

所在地 本社：
東京都港区三田1-1-14 Bizflex麻布十番4F

名古屋サテライト：
愛知県名古屋市西区那古野2-14-1 なごのキャンパス

事業内容 EV充電サービスWeChargeの管理・運営
環境価値創出事業

株主
(50音順) SBIインベストメント、ENEOSイノベーションパートナーズ、オムロンペンチャーズ、オリックス、河村電器産業、スパークス・アセット・マネジメント、住友三井オートサービス、センコーグループHD、ソフトバンク、東急不動産HD、東京ガス、東邦ガス、東陽テクニカ、パナソニック、富士電機、フソウHD、三井住友信託銀行